

直島コメづくりプロジェクト 2007 報告書

直島

直島の面積は 8.13k m²、人口は約 3,600 名。地区は 3 つあり、宮ノ浦、本村、積浦。主な産業としては三菱マテリアル関連の銅の製錬や、ハマチや海苔の養殖漁業などが挙げられる。



直島全土航空写真（写真：直島町）

積浦田園

積浦田園は積浦地区に広がるおよそ42 反（42,000 m²）の田んぼや畑をさす。かつては、田園が広がった里山だったが、公害や高齢化などによって田園は放置され休耕田となった。2006 年よりコメづくりプロジェクトが開始しお米を収穫し、2007 年からはエコアイランド直島による環の里創生プロジェクトも開始され、徐々に休耕田が減り、里山の風景が戻りつつある。



積浦田園航空写真（写真：直島町）

田んぼ

積浦田園の国道沿いの休耕田にてコメづくりプロジェクトの活動を行っている。範囲は約 3 反（3,000 m²）。数 10 年放置された田んぼのため、コメは出来ないとされていたが、初年度の 2006 年から 1.5 トンものお米を収穫した。



田んぼ（写真：渡邊 修）

ごあいさつ

中世とは言わないまでも、数十年前まで、私たちの生活には音があった。日の出とともにかまびすに喧しい鳥のさえずりから始まり、真昼の静寂があって、雀のお宿の騒々しさの後にくる日没と虫のすだ集き。自然の沈黙がおおう日昼には生活の音が。それはいたるところが里山の生活と繋がっていたことを示していた。

「山もとの鳥のこえより明けそめて花もむらむら色ぞ見えゆく」 えいふくもんいん 永福門院

しかし農業の衰退とともに私たちは自然の循環系と切り離され、音が生活のリズムを刻むこともなくなったし、この歌のように自然の景観とともに生きることもなくなった。

例えばお琴。名手の演奏は、打つ、叩く、摺る、編むといった労働の所作を彷彿させてくれるが、それは太鼓でも同じこと。さらにきね杵つき歌や、田植え歌、まじょうた馬子唄、子守唄から始まって、たまさかの祭に登場する数々の音舞。それらは自然との厳しい関わりの中になか湧き出る人間の声だったとは思えないか。音楽や美術やスポーツは深く生活と関わっていて、それは人間の五感と交感している。

こうして、瀬戸内海の美しい景観のなかに登場した直島でのアートプロジェクトや地中美術館の活動は、直島の生活、とりわけ農業とつながりたいと思うようになった。それが直島コメづくりプロジェクトの動機だったかもしれない。

直島町積浦地区には休耕田があり、この数年島内の住民の指導のもと、島外からの多くの人々の参加によって、僅かながらではあるがコメづくりが行われてきた。

それは農業がもっていた協働の喜びとつながり、この地に美術館が設立されアートプロジェクトが行われてきた意味を少しずつ、人々が理解する手立てになってきたように思う。直島コメづくりプロジェクトは田植えから始まり収穫までの折り目で、田の仕事や郷土料理、お祭りまで、人間個人個人の身体、五感とつながる活動を目指している。

現代美術が現代の矛盾、疑問に立ち向かい、この列島、そのなかにある島々にはさみ込まれるのには理由がある。直島のアートプロジェクトの創始者であり体现者である福武館長は「今、この場所」から、極東の弧状の島々をみようとする。そこでの活動が、この土地に流れてきた時間、失われた稲作にかかわることは理の必然であった。

直島コメづくりプロジェクトが多種多層の人々の参加を得て、直島のアートプロジェクトが、より深く現代に切り込むものになっていくのは嬉しい。

皆様のご参加をお願いします。

北川フラム

地中美術館総合ディレクター

1) 概要

直島コメづくりプロジェクト 2007

目的 : 香川県直島・積浦地区に広がる休耕田・積浦田園を耕し、その中の約3反(3,000 m²)で稲作を行う。コメが出来る過程でうまれる、出会いや発見に焦点をおき、コメづくりから豊富な経験や交流をうみだす。

方針・実行項目 : 「コメづくりと生産」
お米の生産を休耕田・積浦田園を開拓して行う

「プログラムの実施」
お米が出来る過程でうまれる出会いや発見を参加者と分かち合う

「イベントの実施」
お米を通じた幅広い交流を生みだす

期間 : 2007年4月～2007年12月

場所 : 香川県直島町積浦

範囲 : 水田3反=3,000 m²、積浦田園42反=42,000 m²

お米の種類 : ヒノヒカリ(うるち米)、モチミノリ(もち米)

主催 : 株式会社ベネッセコーポレーション、財団法人 直島福武美術館財団

2) 結果

「コメづくりと生産」

お米の生産を休耕田・積浦田園を開拓して行う

概要

期間 : 2007年4月～12月

場所 : 香川県直島町積浦

範囲 : 水田3反=3,000㎡、積浦田園一体42反=42,000㎡

品種 : ヒノヒカリ(うるち米)、モチミノリ(もち米)

指導者 : 西岡 幸子(直島町積浦地区在住)

参加者 : お米体験パック参加者、お米づくりサポーター、島民有志、
スタッフ(株式会社ベネッセコーポレーション、財団法人 直島福武美術館財団)

結果

2006年に続き2007年もお米を収穫することができた。夏の日照りや雨不足の影響があり、収穫高は昨年よりも落ちたが、昨年よりお米の味自体がよくなっていたことは大きな喜びだった。

収穫高

- ・ヒノヒカリ(うるち米) : 1,020kg(17俵)
- ・モチミノリ(もち米) : 180kg(3俵)

米の配布

- ・町内の神社へ奉納
- ・お世話になった方々へ配布
- ・アートとコメの収穫祭にて試食会の実施と配布

※ 残りのお米は2008年度に利用

スケジュール

- 4月 : 耕運
- 5月 : 耕運
- 6月 : 育苗、田植え
- 7月 : 田んぼの管理
- 8月 : 田んぼの管理
- 9月 : 田んぼの管理
- 10月 : 収穫準備
- 11月 : 脱穀、精米
- 12月 : お米の配布、来年度の準備



コメづくり作業(10月)

「プログラムの実施」

お米が出来る過程でうまれる出会いや発見を参加者と分かち合う

概要

お米体験パック

期間	：1泊2日（年間5回）	
定員	：15名（島外からの参加者）	
内容	：コメづくり作業	：稲の生長にあわせたコメづくり作業
	里山景観づくり	：休耕田の景観を再生する維持・管理作業
	アート見学	：地中美術館や家プロジェクトなどの鑑賞
	井戸端トーク	：地域の方々と参加者の交流をうむトーク
	懇親会	：周辺の畑で収穫された食材を主に使った食事会

お米づくりサポーター

期間	：2007年6月～12月	
定員	：2名（アルバイト）	
内容	：企画、実施補助	：お米体験パック、その他イベントの企画、実施
	景観維持、管理	：お米や里山の景観を日々維持、管理する

結果

お米体験パック

参加者からは、農業の面白みを知ったや、観光ではない、奥の深い体験が出来たなど、それぞれに出会いや発見が生まれた。

6月16日（土）	：島外0名／島民40名
7月7日（土）8日（日）	：台風により中止
8月4日（土）5日（日）	：島外7名／島民15名
9月1日（土）2日（日）	：島外3名／島民15名
10月6日（土）7日（日）	：島外7名／島民40名



お米体験パック（10月）

お米づくりサポーター

長期間、コメづくりをサポートするスタッフとして、直島やコメづくりに興味があった藤江 達也さん、渡辺 有美さんが8月から12月の間参加した。初めてのコメづくりで、夏の暑い時期の作業も乗り越え、コメを実らせた。コメづくりの大変さと面白みを一番まぢかに体験した。



お米づくりサポーター

（左：渡辺 有美さん、右：藤江 達也さん）

「イベントの実施」

お米を通じた幅広い交流を生み出す

概要

アートとコメの収穫祭

日程 : 2007年11月23日(祝・金)・11月24日(土)

場所 : 香川県直島町本村地区特設会場2ヵ所

内容 : アートマーケット : 現代美術から農作物まで総勢50ブースの出店者による展示・販売を実施

収穫演芸祭 : 催しや演奏など様々な団体やグループによるパフォーマンスや演奏を実施

シンポジウム : 2010年開催予定の瀬戸内国際芸術祭(仮称)に向けたシンポジウムを実施

新米試食会 : 実ったお米を食す新米試食会を実施

結果

全国各地からやってきたアーティストによるアートマーケットや、瀬戸内海沿岸で活動する団体による収穫演芸祭、2010年の瀬戸内国際芸術祭に向けたシンポジウム、そして直島米の新米試食会など、お米の収穫を一緒に祝う盛大な宴になった。収穫祭では、その他お米関係の催しものも会期中行われ、2日間で約1,500人が来場した。

1日目 : アートマーケット : 来場者数800人
収穫演芸祭

2日目 : アートマーケット : 来場者数700人
シンポジウム
新米試食会



新米試食会

その他催し

・アートマーケットでのコメづくブース

コメづくりプロジェクトでは、クイズに答えて直島米を食べようという趣旨で、来場者はパネルからクイズの答えを探しだ、直島米を獲得するブースを2日間出店した。用意した500人分のお米はすべてなくなった。

・稲藁の参道

最寄の農協前バス停から会場まで(300m)の道なりに稲藁で出来た参道を設置した。稲藁は直島老人クラブの方々20名とお米づくりサポーターによってあまれた。



直島米の配布

3) 反響

「島民の声」

お世話になった方々の声を紹介

西岡 幸子さん（コメづくり指導者）、兼元 悦子さん（積浦婦人会会長）

Q. 今回で2回目のコメづくりはどうでしたか？

A. 今年は台風がなかったが雨が少なく自然の影響と肥料が少なかったため、お米は小さかったですね。味に関して、今年は品種も変えたことにより、昨年よりは美味しかったです。これで大きさが増すとさらに美味しくなると思います。（西岡さん）

Q. 島外から若者が直島で農業をやることについてどう思いますか？

A. 農業好きな若い人間がどんどん直島で農業をして田んぼや畑を貢いでほしいです。お米以外にも野菜など作って、お米も無料配布より、欲しい方にはお米の販売もやっていければいいと思います。（兼元さん）

森井 照子さん（地主）

Q. 直島・積浦田園が盛んであった頃の状況はどうでしたか？

A. 積浦田園は見渡す限り全部が田んぼで、みんな作業をしていました。小学生の頃、農半休期があり学校が休みで親戚同士が集まって一緒に田植えしたり、稲刈りをしたりしていました。

Q. 休耕田から、積浦田園が復活した時どう思いましたか？

A. よかった。私は俳句をやるので散歩をしに、田んぼ行ったとき、夕方すぎに田んぼからカエルの鳴き声がしたときは感動しました。今までどこにいたのか、カエルが戻ってきたのは不思議でした。



森井 照子さん

山口 剛さん（農業委員会委員長）

Q. これまでの直島でのアートの取り組みをこえて、農業に取り組みだした事についてどう思いますか？

A. 有休農地、休耕田に関して、休耕田をうまく使ってくれと県から何年前から言われてきたが、なかなか実行できず、平均年齢 70 歳と高齢者が多いことや、若い者は農業はやらなかったことがありました。そこでベネッセがはいつてきたことによって私たちの趣旨と合致し、農業委員会として非常にありがたく思っています。県も去年から環の里創生プロジェクトを結成してヒマワリや菜の花も植えて、積浦田園が徐々に変わってきています。



山口 剛さん

「プログラム参加者の声」

島外の人を対象にしたプログラム参加者の声を紹介

藤江 達也さん（お米づくりサポーター）

今までから現在、そしてこれから先ずっと主食として食べていくお米を自分で育てて収穫して口にする。この経験ができたことが一番の収穫でした。今年も収穫出来たのは天候などの自然災害が少なかったことはもちろんですが、コメづくりの指導者、積浦の西岡幸子さんをはじめ本当に島内島外の色々な方と一緒に田んぼでつくって収穫されたお米でした。お米に限らず普段何気なく



藤江 達也さん

食べていたお米の背景にはこんなに人の手が加わっていると今回発見しました。今回コメづくりを通じてこれほど地域の方と交流するとは思いませんでした。地域以外の方でも農業委員会の方や香川県知事の方など普段の生活では交流はない方ともお話が出来ていい経験をさせて頂き、そしてこれほどみなさんから期待されていることに驚いています。昨年直島スタンダード2でも色々な方と知り合い、今年もコメづくりプロジェクトを通じて、特に今回は地域の方との出会い・交流が貴重でした。直島は本当に自分自身を大きく成長できる場所です。直島コメづくりプロジェクト2007に参加出来て本当に良かったです。ありがとうございました。

渡辺 有美さん（お米づくりサポーター）

直島でのコメづくりという貴重な体験をさせていただいて、すごくうれしかったです。お米を育ててみて、こんなに大変な思いをして農家の方達は育てているんだ、ということがわかったし、そのお米を毎日食べられるというのは、幸せなことなんだ、と気づきました。赤ちゃんを産んだお母さんが、「生まれた赤ちゃんを見て、それまでの痛さが吹き飛ぶ」というのを聞いたことがある



渡辺 有美さん

のですが、お米を作っている、そういう感じでした。暑い中、大変な思いをしてお世話をし、収穫できたときのあの喜び。それまでの苦勞が吹き飛びました。さらにお米を精米して、ごはんとして食べられるようになったときにはうれしくて、手に取ったまましばらく見とれていました。また、そのお米がみなさんから「おいしい」と言っていたときはものすごくうれしかったです。わたしたちの子どもがみなさんに認められた気がしました。最後に、このコメづくりプロジェクトに参加できたことを心から感謝します。2007年という年が私の人生を変えたことは間違いありません。わたしの将来に絶対影響があります。絶対と言い切れる自信があります。そのような機会を与えてくださった地中美術館、直島のみなさまにお礼を申し上げます。

4) 総括

直島コメづくりプロジェクトは、2006年直島島内で開催された「NAOSHIMA STANDARD 2」の関連企画として始まった。展示会のコンセプト「日常を支える生活基盤を『文化』の視点から見直し、芸術活動によって再構成していく」を伝えるための取り組みと、同時に「お米の生産」、「里山の風景の再生」、「直島の文化の継承」をプロジェクト独自の目的として活動を行った。活動の結果、お米が生産され、里山の景観が徐々に変貌し、コメづくりを通じた直島の文化の継承活動を行い、これまで直島でのアートプロジェクトではなかった島の人たちとの関わりがあった。そして一番大きな結果は、プロジェクトがこれまでの直島のアートプロジェクトにはなかった領域へ展開しているという予感だった。

2006年の活動後、結果や課題を見直し2007年の取り組みに移った。2006年の目的「お米の生産」、「里山の風景の再生」、「直島の文化の継承」に加え、島外からスタッフや参加者を募ったり、コメづくりの作業プログラムの企画、実施を行う普及活動を行うことになった。コメが出来る過程でうまれる出会いや発見に焦点をあてた活動に力を注いだ結果、地元の人、プログラムの参加者などの反響にもあるとおり、コメづくり作業の大変さ以上に、コメづくりプロジェクトという活動を通じた繋がりが生まれた喜びや、活動によって実ったお米の美味しさを分かち合う楽しみ、またコメづくりを通じた直島という場所の発見をしたことなどの反響を得た。

直島コメづくりプロジェクト2007では、これまでの直島の地中美術館をはじめとするプロジェクトではない切り口で、直島という場所や、直島のアートプロジェクトを理解する手立てとなっている実感を得ることができた。今後、コメづくりプロジェクトが生み出す可能性を更に現実的にかたちにしていくために、コメづくりや田んぼを再び生活や集落の中に取り入れることを目指し、プロジェクトを展開していこうと考えている。

5) 参考資料

掲載・放送数一覧

・6月8日	Fresh Morning OKAYAMA	ラジオ	・10月26日	日本の美術館博物館情報	web
・6月17日	朝日新聞 朝刊	新聞	・10月27日	artscape	web
・7月ー	広報なおしま	雑誌	・10月30日	西日本放送ラジオ	ラジオ
・8月22日	インターネットミュージアム	web	・11月1日	広報たまの	市報
・9月ー	情報てんこもり ラジオでDON	ラジオ	・11月1日	美術手帖	雑誌
・9月7日	Fresh Morning OKAYAMA	ラジオ	・11月1日	FM おかやま	ラジオ
・9月23日	西日本放送ラジオ	ラジオ	・11月6日	朝日新聞	新聞
・10月1日	瀬戸内アートネットワーク	web	・11月7日	日経 WOMAN	雑誌
・10月11日	JDN	web	・11月15日	まちづくりNEWS	web
・10月11日	delog	web	・11月17日	リビング高松	雑誌
・10月11日	めるまる	web	・11月22日	メルマガかがわ	MM
・10月11日	excite ism	web	・11月22日	共同通信	新聞
・10月12日	直島町観光協会 HP	web	・11月23日	アートナビ	web
・10月12日	関心空間	web	・11月24日	Shikoku NEWS	web
・10月19日	香川朝日	新聞	・11月25日	四国新聞日刊	新聞
・10月19日	大阪府現代アートセンター	MM	・11月ー	日経ホーム出版社	web
・10月25日	FM おかやま	ラジオ		Standard	web
・10月25日	山陽新聞	新聞		美術の窓	雑誌
・10月26日	朝日新聞	新聞		ジャパンデザインネット	web
・10月26日	NHK	テレビ		Art inn	web

※web=ウェブサイト MM=メールマガジン

参加者一覧

・芦田 史郎	・笠原 麻美	・高橋 恒明	・幡本 和加子	・望月 志津子	・西村 和雄
・芦田 真理	・笠原 良二	・高山 健太郎	・服部 木綿子	・守家 正祐	・石川 昭子
・穴吹 勇人	・金廣 有希子	・田尻 量平	・姫井 温子	・山口 剛	・中林 征一
・池田 良子	・亀山 隆	・田中 ユウヤ	・兵藤 雄太	・山田 省吾	・土井 厚
・井筒 耕平	・唐鎌 真一	・谷脇 流斗	・平野 克弥	・山本 信子	・浜口 敏夫
・今井 未来	・川角 礼子	・谷脇 望見	・廣瀬 充伸	・山本 宏子	・浜中 満
・今田 美由紀	・木村 義浩	・谷脇 好軌	・藤井 勲	・山本 真由美	・蓬 清二
・今田 亮太	・菊田 修	・茶谷 千香	・藤江 達也	・横田 裕子	・野田 旭
・今瀧 哲之	・黒川 幸重	・土屋 徹秋	・藤堂 敦	・吉岡 澄江	・野田 敬統
・上谷 卓一	・工代 祐司	・土井 厚	・藤原 仁志	・渡邊 有美	・野田 珠生
・内田 真一	・小林 海斗	・土居 一仁	・前田 美奈	・井下 良雄	・野田 有美
・枝松 信二	・小林 拓斗	・峠 佑樹	・増田 敬一	・菊田 修	・齋藤 崇
・江原 久美子	・小林 智美	・徳田 佳世	・松下 啓一	・宮原 三郎	・未 順秋
・大江 晋介	・小林 観二	・中西 佳子	・松島 俊雄	・金光 貞子	・濱口 敏夫
・大賀 幸蔵	・近藤 聡太	・中西 あずみ	・水越 悠文	・作田 宏	・濱田 孝夫
・大西 孝史	・篠原 理代子	・中西 におな	・水野 京子	・山口 剛	・Barry Chau
・大山 貴史	・下岡 尊文	・西岡 幸子	・水野 欣司	・山上 英一	・積浦婦人会
・大山 慶悟	・下津 良治	・西岡 末好	・水野 充恵	・山上 達也	・直島老人クラブ
・岡田 実	・十川 和久	・西村 和雄	・水野 順之	・松下 功典	
・小野 考一	・高田 洋一	・野崎 千尋	・宮原 三郎	・西 忠彦	

直島コメづくりプロジェクト 2007 報告書

2008年3月発行

株式会社ベネッセコーポレーション、財団法人 直島福武美術館財団

本報告書についてのお問い合わせ

〒761-3110 香川県香川郡直島町 3449-1

財団法人直島福武美術館財団 担当：高山